

だけがアジア的存在様式の特徴を身につけるだろう。日本は多くの人々がそう思っているように、自分の文化にヨーロッパの技術をつけ加えたのではなく、ヨーロッパの科学と技術が日本の特性によって装飾されたのだ。実際生活の基礎は、たとえ、日本文化が——内面的な区別なのだから外観ではよけいにヨーロッパ人の目にはいつてくるから——生活の色彩を限定しているにしても、もはや特に日本的な文化ではないのであって、それはヨーロッパやアメリカの、したがってアリア民族の強力な科学・技術的労作なのである。これらの業績に基づいてのみ、東洋も一般的な人類の進歩についてゆくことができるのだ。これらは日々のパンのための闘争の基礎を作り出し、そのための武器と道具を生み出したのであって、ただ表面的な包装だけが、徐々に日本人の存在様式に調和させられたに過ぎない。

今日以後、かりにヨーロッパとアメリカが滅亡したとして、すべてアリア人の影響がそれ以上日本に及ぼされなくなつたとしよう。その場合、短期間はなお今日の日本の科学と技術の上昇は続くことができるに違いない。しかしわずかな年月で、はやくも泉は水がかれてしまい、日本の特性は強まってゆくだろうが、現在の文化は硬直し、七十年前にアリア文化の大波によって破られた眠りに再び落ちてゆくだろう。だから、今日の日本の発展がアリア的源泉に生命を負っていると同様、かつて遠い昔にもまた外国の影響と外国の精神が当時の日本文化の覚醒者であつたのだ。その文化が後になって化石化したり、完全に硬直ししまったという事実は、そのことをもつともよく証明している。こうした硬直は、元来創造的な人種の本質が失われるか、あるいは、文化領域の最初の発展に動因と素材を与えた、外からの影響が後になって欠けてしま

う場合にのみ、一民族に現われうる。ある民族が、文化を他人種から本質的な基礎材料として、うけとり、同化し、加工しても、それから先、外からの影響が絶えてしまうと、またしても硬化するといふことが確実であるとすれば、このような人種は、おそらく「文化支持的」と呼ばれうるが、けつして「文化創造的」と呼ばれることはできない。